

12月9日

子どもたちのために 曾根富恵さん町に30万円寄付

元交通安全指導員の曾根富恵さんから町に30万円の寄付がありました。

曾根さんは昭和52年2月1日～令和6年10月31日までの47年8カ月にわたり交通指導員を務め、子どもたちが安全に登下校できるよう見守り続けてきました。

曾根さんは「寄付金を子どもたちのために使ってください」と話していました。



川島眞澄教育長(右)から感謝状を受け取る曾根さん

12月17日

みんなぜひ読んでください 星の子が大型絵本を寄贈

全国優良読書グループ表彰を受賞した「よみきかせの会☆星の子」は、表彰の副賞(図書カード)で大型絵本「いただきます」「まどからおくりもの」の2冊を購入し、公民館図書室に寄贈しました。

星の子メンバーの田甫玲奈さん(庶路8年)は「聞いた人が自分でも読んでみたいと思ってもらえるように、楽しい読み聞かせをしたい」と話していました。



星の子メンバーの田甫さん、鍛冶恵子代表、田川ひとみさん



庶路川ししゃもふ化場でししゃもを見学する小学生

12月7日

ししゃもを学ぶ 第3回ふるさと未来塾

「ふるさと未来塾」の今年度3回目の活動が行われ、小学生20人が「庶路川ししゃもふ化場」を訪れました。

子どもたちは、ふ化場でししゃもを見学し、生体などを学ぶとともに、職員からふ化場の必要性やその取り組みなどを聞き、理解を深めました。午後からは西庶路たこあげ同好会のメンバーと凧を作り、庶路学園グラウンドで凧揚げを楽しみました。

12月2日

互いの文化を学ぶ JICA研修員交流事業

白糠高校とJICA(国際協力機構)研修員の交流事業が同校で行われ、1～3年生の生徒57人と研修員6人が互いの文化を学びました。

研修員は、ジブチから来た2人とタンザニアからの4人。研修員が出身地の食や文化などについて紹介した後、1年生はスワヒリ語やソマリ語を使ったイス取りゲームを行い、楽しみながら交流を深めていました。



イス取りゲームで交流する研修員と白糠高校1年生

12月5日

※この記事は、役場の広報で職業体験をした中田匠さん(茶路2年)が作成しました。

身近な社会について学び将来に生かす 茶路中学校職業体験

茶路中学校2年生の對木亜香さんと松永あゆみさんが職業体験授業で白糠郵便局を訪れました。

二人は藏本博幸白糠郵便局長から仕事の内容を学んだ後、郵便の封入作業を行いました。對木さんは「仕事の効率化を考えることが難しかったです」、松永さんは「この経験を今後の生活にいかしていきたい」と苦戦しながらも意欲的に取り組んでいました。



写真上/左から松永さんと對木さん、藏本局長
写真右/取材する中田さん



ケーキ用のざくろシロップを作る講師の山本さん(右)と参加者

12月2日

クリスマスシーズンにぴったり レアチーズケーキ&クッキー作り講座

「レアチーズケーキ&クッキー作り講座」が社会福祉センター料理室で開かれ、町民6人が参加しました。

講師は製菓衛生士の山本若恵さん。参加者は、クリスマスの赤をイメージした、ざくろシロップをかけたレアチーズケーキとスノーボールクッキーの2品を作りました。参加者たちは談笑しながらも手際よく調理を進め、楽しんでスイーツ作りを学んでいました。



笑顔で交流する小学生と高校生

12月4日

スポーツを通じて交流を深める 小高交流事業

対話力や協働力を育むことを目的に白糠高校と小学生の交流事業が、白糠学園と庶路学園で行われました。

この日は、生涯スポーツ専攻の白糠高校3年生7人と庶路学園5年生15人が、テニスとピンポンを融合したスポーツ「テニポン」を行い、心地よい汗を流してました。小高の交流事業は初めての開催となりましたが、終始笑顔が絶えない事業となりました。